

賠償、失業保険、子ども医療費 切実な訴えが続出

避難者の相談に対応



子ども連れで相談に訪れた母親の姿も見られました

「震災・原発事故避難者のためのなでも相会」が19日、開催されました。山形県労連などを中心とする実行委員会の主催で、弁護士、医師、看護師、労働相談員などが対応し、私も相談員として参加しました。会場となった山形市総

震災・原発事故避難者対象の相談会に相談員として参加

合スポーツセンターには若い夫婦や子ども連れも多かった。母親などが相談に訪れました。
「帰りたいとも帰れない」
東京電力に対する原発事故の賠償にかかわる相談が多くを占め、弁護士に相談していました。共通して、避難生活の苦悩を語り、「除染が進まず、帰りたいとも帰れない」と訴える方もおられました。
次いで、借り上げ住宅に関する相談も多く、避難が長期化する中で課題が浮き上がっています。原則として、民間借り上げ住宅の県内移動は関連する法律では認められていませんが、避難されている方々の家庭や雇用などの状況が多様に変化してきており、住み替えを希望する人が出てきて



2012年5月27日
-24号

発行
日本共産党県議会議員
渡辺 ゆり子

<連絡先>
県議会共産党執務室
電話 023-630-3241(受付)
自宅：山形市青田2-10-5
電話 023-642-2365

共産党山形県委員会と各地区支部は、6月3日に志位和夫委員長を迎え山形、庄内のある2会場で講演会を開催することとしており、様々な取り組みをおこなっています。



志位和夫委員長

志位委員長が語る 日本改革の展望

演説会にぜひご参加ください

動の取り組みとして街頭から訴え。また18日のいっせい宣伝行動として、私も街頭宣伝に参加し、政策を語り、演説会への参加を呼びかけました。

そこで私は、「提言」を示し、志位和夫委員長がお話しますので、ぜひおいでくださいと呼びかけています。当日は、高橋ちづ子候補とともに、各団体へ演説会の参加を案内し、「消費税増税しない」「消費増税しない」を訴え、社会保障の充実、財政危機打開への、党の「提言」を掲げています。商工団体や建設業界

も、食の安全や自給率の向上を求め、これまで積み上げてきた連携に大打撃を受け、食などの環境が、いかに大切なものだったか、それを一瞬にして汚染してしまう原発事故の重大さを痛感させられました。電力不足の試算や原発再稼働などが議論になっていますが、県民の方々との対話の中では、多くの人が、まず原発をゼロにする、まず方向をしっかりと決めて進めてほしい」と話してくれました。この声を、大いに広げたい。

例えば、「子どもが生まれれば、家族が増えたと、何としても囁いたため、少しでも有利なところへ、など、切実な内容となつていきます。その他、失業保険に

「子ども」も設置された「コーナー」も設置され、学生も含めたボランティアのスタッフが力を発揮していました。私も関係者と協力しながら、避難者支援の活動を継続、強化していきたいと思えます。



県議会定例会は6月19日開会(見込み)
22日に議会運営委員会が開かれ、県議会6月定例会は6月19日開会の見込みとなりました。同日が請願提出の締切日となります。県政へのご意見・ご要望をお寄せください。
メールアドレス yuriko.w@vega.ocn.ne.jp(渡辺)

原発事故と食について考える

生産者も消費者も、食の安全や自給率の向上を求め、これまで積み上げてきた連携に大打撃を受け、食などの環境が、いかに大切なものだったか、それを一瞬にして汚染してしまう原発事故の重大さを痛感させられました。電力不足の試算や原発再稼働などが議論になっていますが、県民の方々との対話の中では、多くの人が、まず原発をゼロにする、まず方向をしっかりと決めて進めてほしい」と話してくれました。この声を、大いに広げたい。

ゆり子の視点
13日、「食と健康を守る会」山形食健康の総会があり、私も会員として参加し、先だって、TTPに関するビデオ上映が行われ、意見交換の中では、放射能検査についても出されました。食品に関する新基準が示され、17都県のひとつとして、山形県でも順次検査が行われていきます。